

お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃんへ 娘さん、お孫さんは何歳ですか？

HPVワクチンは、子宮頸がんを予防するワクチンです

対象者



12歳～27歳の女性

小学校6年生



対象年齢であれば、約10万円の接種費用を
公費で接種することができます

2024年度に以下の年齢になる方は、公費(原則自己負担なし)でHPVワクチンを接種することができます

定期接種対象者

小学校6年生～高校1年生相当の女子

標準的な接種時期は中学校1年生
(2008年4月2日～2013年4月1日生まれ)

キャッチアップ接種対象者

1997年度生まれ～2007年度生まれの女性

かつ、過去にHPVワクチンの合計3回の接種を完了していない方
(1997年4月2日～2008年4月1日生まれ)

12歳

13歳

14歳

15歳

16歳

17歳～27歳

高校1年生相当の女子とキャッチアップ接種対象者が
公費で接種することができるのが**2025年3月末まで**です！

※標準スケジュールでは、1回目接種から3回接種まで6カ月間必要

まだ
間に合う！

ただし、やむを得ない場合は**最短4カ月間**で3回接種も可能！ (9価HPVワクチンの場合)

(例①) 1回目：10月28日(月) 2回目：11月28日(木) 3回目：2月28日(金)

(例②) 1回目：11月19日(火) 2回目：12月19日(木) 3回目：3月19日(水)

知っていますか？ けい HPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）

けい 子宮頸がんって？

HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で起こると言われているがんです。日本では毎年、**約11,000人**が子宮頸がんになり、**約2,900人**が亡くなっています。30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、1年間に**約1,000人**います。早期発見・治療で子宮を温存できたとしても、出産時のリスクが上がります。



ワクチンの効果

HPVワクチンは**2価**、**4価**、**9価**の3種類。**2価**、**4価**のワクチンは子宮頸がんの原因の**50～70%**を防ぎます。**9価**のワクチンは、子宮頸がんの原因の**80～90%**を防ぎます。HPVの感染を防ぐだけでなく、**がんそのものを予防する効果がある**こともわかってきています。

ワクチン接種後に現れる可能性のある症状

ワクチンの接種を受けた後に、接種を受けた部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。まれにですが、重い症状が起こることがあります。

発生頻度	2 価ワクチン(サーバリックス®)	4 価ワクチン(ガーダシル®)	9 価ワクチン(シルガード®9)
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒(かゆみ)、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書(第14版)、ガーダシル®添付文書(第2版)、シルガード®9添付文書(第1版)より改編

*接種した部位の症状

※ワクチン接種後に気になる症状が現れた場合、必要に応じて接種した病院やかかりつけ医から協力医療機関（愛媛県では愛媛大学医学部附属病院）に連携する体制が整っています。

世界では接種が進んでいる

WHO（世界保健機関）も接種を推進！

2022年12月時点で、**120か国以上**で公的な予防接種が行われています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは接種率が8割を超えています。**WHOは、2030年までに90%以上の女性が15歳までにワクチンを接種することを推奨しています。**